



相浦川を渡って相浦の市街地に入ると、いくつかの古い家が目につきます。吉田医院の母屋と旧宅、そして現在院長の吉田治正さん(八十二歳)が診療している医院の三棟です。

右端の旧宅は、昭和八(一九三三年)の建設で、和洋折衷の昭和モダンを表現したような造りです。真ん中の私宅は、純和風で築百五十年以上というこ

この私宅は、相浦の名門草刈家から譲り受けました。その後部分改装はしましたが、大きな手直しはされていません。黒光りする大きな梁や大黒柱、欄間の繊細な飾りなど、歳月をにじませ、古色が素晴らしい味わいです。

今日、古民家を再生して古風を生かしながら、モダンリビングに合わせるという風潮が静かな話題になっています。一階の部屋も同様で、二階に上る階段も階段たんの作り付け。草刈家

が無駄な空間をなくす知恵として設けたのでしょう。

昔の大きな商家は、一階を帳場に、その背中側になる階段下を利用した階段たんとすを設けました。帳簿や商品などを収める場所として重宝していたようです。

吉田家は平戸藩時代の医師を祖とし、相浦との縁は安政三(一八五六)年生まれの吉田省吾氏から。省吾氏は漢方の長崎医専の一、二回生として医師免許を得ました。明治中期に開業、明治、大正、昭和の三代にわたって校医を務めました。自転車で行診する姿が、今に至るまで語り継がれています。

阪大医学部卒の季治氏は昭和初期に開業。戦後の荒廃した時代、青少年の健全育成に尽力し、相浦体育クラブを創設しました。医院前庭に顕彰碑が建てられています。

吉田医院の三棟の家 ●相浦町 撮影・文 ●筒井隆義

歴史散歩 第五七二回



市長日記

校内放送で「一日一善運動」を紹介する早岐小学校

先日、学校給食週間の行事として、早岐小学校で児童の皆さんと、昼食を共にする機会がありました。

はじめに学校の栄養担当職員から、食材の栄養や産地などの説明があり、みんなで「いただきます」のあいさつをしてから、給食の時間が始まりました。

しばらくすると、校内放送で「一日一善運動の発表をします」との案内がありました。その声は校長先生のように、そのまま耳を傾けていると、「2年1組の〇〇さんは、昨日、家族の人と近くの公園のゴミを拾いました」「1年2組の〇〇君は登校中、交通指導員の方に元よくあいさつができました」「6年1組の〇〇君は、昨日、バスの中でお年寄りに席を譲ったので、お年寄りの方から感謝されているのを私は見ました」など、次から次に30人分ぐらいの「一日一善」の披露がありました。

校長先生がどのようにして情報を得ているのか疑問に思い、児童に尋ねてみると、早岐小学校では、良いことをしたり、良いことをしている友だちを見かけたりしたら、専用の報告カードに、いつ、どこで、誰が、どんなことをしたのかを書いて、校長室の前などに置いてある箱に入れるようにしているとのこと。校長先生は翌日、そのカードに書いてあ



報告カードを投函する児童



児童の善行を読み上げる塩田校長

る善行を、給食の時間に校内放送で児童全員に紹介しているそうで、校長先生が学校にいる時は毎日実施されているという話を聞き、大変感銘を受けました。

給食が終わってから、塩田和久校長に「たくさんある投稿を毎日放送されるのは、さぞ大変でしょう」と労をねぎらうと、塩田校長は「実行し始めたら最後まで続けたいと思っています。放送時間に限りがあるため、発表回数などを平等にするのに大変な面もありますが、子どもたちは何かを感じてくれているようで、やりがいもありますよ」と明るく話してくれました。

「言うは易く、行うは難し」。塩田校長の実行力に心から敬意を表したいと思います。今回は心に残った徳育推進運動の実践例をご紹介します。

佐世保市長 朝長 則男

シリーズ 佐世保の食 16

ブロッコリー



冬から春にかけて旬を迎える「ブロッコリー」。11月から収穫が始まり、5月初めまでスーパーなどの店頭と並びます。本市の南部と北部地域で栽培されており、時季に合わせて最適な品種を栽培しています。

ブロッコリーは、つぼみの集まりと茎を食べる野菜です。新鮮なものを選ぶポイントは、色鮮やかで、つぼみが小さくしまっており、茎の切り口が新しいものが目安とされています。

野菜の中でもビタミンCなどの栄養価が高く、食物繊維も豊富です。ビタミンCを壊さないで、その甘味と食感を楽しむためにも、軽くゆでてサラダなどでお楽しみください。

今が旬の野菜「ブロッコリー」をぜひご賞味ください。

観光物産振興局 ☎24-1111

人の動き 2月1日現在

- 総人口 258,258人(-40人)
男性 121,112人(-49人)
女性 137,146人(+9人)
- 世帯数 105,489世帯(-14世帯)
- ※1月中の動き
転入 589人、転出 461人
出生 191人、死亡 359人

させぼ市政だより

- テレビ (毎週土曜)
NBC・NIB→9時25分~30分
KTN・NCC→11時40分~45分
- ラジオ
NBC 日曜 9時25分~30分
FM長崎 火曜 9時5分~10分
FMさせぼ 火曜10時30分~35分
日曜 9時30分~35分
- 新聞
長崎新聞 毎月第2・4火曜
- ホームページ
<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/>



携帯サイト

徳育通信 12

徳育の淵源は「家庭の対話」から

佐世保市の「徳育推進のまちづくり宣言」から一年が経過しようとしている。これまで「徳育でキラッとひかる佐世保市民」を合言葉に、徳育推進フォーラムをはじめ、多くの行事に参加してきたが、そこで出会う皆さんとの対話は「人と人との絆のきっかけをどのように心掛けているか」という話題が多かった。そして、皆さんの「徳育」への関心の高さにも気付いた。そこで、徳育の「淵源※」について再度考えてみると、やはり徳育は、まず家庭の中から行うもので、中でも「あいさつ」と「礼儀」は日本の精神文化の最たるものとして脈々と生き続けていることを日常生活の中に意識して生かしていきたい。

ある日、5歳になる孫に「どうして仏壇に拜むの?」と聞かれたので、自分がおじいさんやおばあさんを大切に思っていることを話した。孫は黙ってうなずくだけだったが、すぐに仏壇の前に正座し、もみじのような小さな両手を合わせていた。そのかわいらしい姿に心をひかれた。こうして普通の生活の中での言葉や行いが、安らぎや勇気を奮い起こし、人間としての配慮の深さにつながるのではないだろうか。

佐世保市教育会 副会長 小原 正巳

※淵源(えんげん):物事の起こり基づくところ。根源。



この徳育通信を切り抜いてノートに貼り、「徳育ノート」として家庭で保管しましょう!